

事務事業名 子ども会育成会指導者研修会事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：669

施策：	03	子ども・若者の健全育成	財務コード	01090603-20-554
基本事業：	01	子ども・若者の学習機会・体験活動の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	家庭・地域での子どものための活動が充分だと思ふ市民の割合 学校の授業以外で体験活動をしている児童の割合 学校の授業以外で体験活動をしている生徒の割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
子ども会育成会指導者			<p>【子ども会育成会研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会活動を支援する育成会として必要な知識、技術の習得を促す。研修会で、育成会経験者の講話や、レクリエーション活動の講習を行う。</li> <li>事務担当者説明会等に併せて育成会研修を実施する。</li> </ul> <p>【その他の研修】</p> <p>福岡ブロック子ども会等育成会指導者研修会、筑紫地区子ども会、少年団体指導者研修会等の情報を市子連を通じて情報提供。</p>							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
子ども会活動を支援する育成会（子ども会育成会）の役割と、その支援のあり方を学ぶことにより、子ども会育成会が円滑に運営される。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
子ども会育成会数		数	49	50	55	55			60	
研修会参加者数		人	68	72	150	150			150	
5. コスト										
事業費		計	千円	3	0	22	40			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	0	0	0	0			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般		千円	3	0	22	40				
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1					
正職員人件費		千円	782	802	838					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	785	802	860	40				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている		研修会参加者数は前年度比4人増加した。増加の主な要因として、令和5年度より子ども会リーダースクールにおいて、子どもだけでなく、育成会（大人）も研修を受ける機会として位置づけ、子どもと関わりながら、子ども会活動の支援者としての関わり方やレクリエーション指導を学んでもらったためである。								
どちらかといえばあがっている										
あがっていない（停滞・低下）		【研修会参加者数の内訳】 事務担当者説明会：60人 子ども会リーダースクール：12人								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	子ども会活動を支援する育成会として関わる保護者たちの負担感を減らせるよう市子連や各自治会との連携ですすめることが必要である。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	なし							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
今後も継続して、「子どものための子ども会」の考え方を進めていくなかで、「本来の子ども会とは、どういうものなのか」や、育成者の役割を伝えていくことが必要であり、本事業を通して、研修の場を提供する。					平成27年度より、子ども会活動補助金の対象を見直し、市子連に未加入の子ども会の把握を行った。その中で市の主催事業となる本事業についても、子ども会活動の活性化を図るため、市子連未加入の単位子ども会に向け、参加の奨励を行なっている。					
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄					
子ども会育成会指導者に対して、子ども会活動を支援する育成会としての役割と、その支援のあり方を学ぶ機会を提供することを目的として開始した。					親や子ども達の価値観の多様化により、子ども会活動に対する認識が薄らいでいる。					